



近畿ブロック



発行人：外山 学
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail jpc@ a-youme.jp
HP square.umin.ac.jp/pc-kinki/

ニュースレター No.17 (2016.12)

[代議員会報告] 近畿ブロック支部代議員会 (11月27日)

近畿地方会の昼食時に、学会本部から丸山泉理事長と前野哲博副理事長のご臨席の下、近畿ブロック支部代議員会が開催されました。参加者は57名でした。

7月の代議員会における役員改選の際、空席となっていた兵庫県所属の新幹事として、岡山雅信先生(神戸大学大学院 地域医療教育学部 門)が推薦され、承認を行いました。



外山 学 (益田診療所/大阪府門真市)



尚、地方会についての詳細は、来年3月発行予定の次号ニュースレターで紹介させていただきます。

近畿ブロック支部 (KPCA :Kinki Primary Care Association) について

近畿ブロック (滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県) に所属する学会会員で構成され、ブロック代議員会を最高議決機関としています。

ブロック支部会費は必要ありません。日常的な運営は幹事会が行っています。



- ・ **支部長** : 外山学 (学会理事)
- ・ **副支部長** : 雨森正記 (学会理事)、大島民旗、戸田和夫
- ・ **幹事** : 朝倉健太郎 (学会理事)、鈴木富雄 (学会理事)、福原俊一 (学会理事)
足立光平、石丸裕康、一瀬直日、岡山雅信、梶山泰男、木戸友幸、小泉俊三、関透、高木幸夫
武田以知郎、西尾健治、畑伸弘、羽野卓三、松井善典、三ツ浪健一、森村美奈、吉本清己
- ・ **監事** : 大島久明、水野融
- ・ **顧問** : 空地顕一、松村理司

府県支部の連絡窓口及び担当者一覧

- [滋 賀] 浅井東診療所 事務局 井関 敏夫 〒526-0203 長浜市野瀬町 828 番地
E-mail jpcashiga@gmail.com Tel.0749-76-8111 Fax.0749-76-8118
- [京 都] 下京西部医師会事務所 京都支部長 小泉俊三
〒601-8452 京都市南区唐橋堂ノ前町 15-9 エステート南ビル3 F
E-mail simonishi@ishikai.or.jp Tel.075-693-3900 Fax.075-693-3911
- [大 阪] 益田診療所 外山 学 〒571-0067 門真市石原町 18 番 15 号
E-mail toyama@osaka.med.or.jp Tel.06-6901-0231 Fax.06-6901-8227
- [兵 庫] (準備中: 仮) 兵庫県医師会 事務局 西田 恵 〒651-8555 神戸市中央区磯上通 6-1-11
E-mail m.nishida@hyogo.med.or.jp Tel.078-231-4114 Fax.078-231-8113
- [奈 良] 奈良医大総合医療学教室 秘書 生駒 佳子 〒634-8522 橿原市四条町 840
E-mail soushin@naramed-u.ac.jp Tel.0744-29-8905 Fax.0744-24-5739

[勉強会報告] 第 32 回プライマリ・ケアを語ろう・おおさか勉強会 (8月21日)

大島 民旗 (西淀病院/大阪市西淀川区)

学会の大阪地区勉強会としての歴史を持つ本勉強会が、大阪大学中之島センターで開催された。今回は「最近の健康課題と食事の話題～糖質制限食、フレイル予防など～」をテーマに、梶山泰男代表の講演と山本浩司先生(住友病院総合診療科診療主任部長、糖尿病学会「食品交換表」編集委員会現オブザーバー委員)のコメントを中心に構成された。



講演では、要介護になる原因の多くは、動脈硬化と密接に関連している。その要因の中で、タバコと高血圧はある程度コントロールの見通しが出てきたが、糖尿病は25倍に増加している。糖尿病の予防や治療には運動の比重が大きく、日本人の生活で一番変わったのは自動車と電話で、食後15分に15分の運動療法など運動の増加が重要と指摘、糖質制限し過ぎてフレイルにならないようにと強調された。

グループディスカッションを挟み、山本先生から、戦後日本人のたんぱく質摂取は変わらず、糖質摂取が減っているのに糖尿病は増えていること、糖尿病学会の推奨は炭水化物をエネルギー全体の50～60% (150g以上)であり、低炭水化物ダイエットは短期的には体重を減らし血糖を下げるが日本を含めて長期的なエビデンスはなく、「和食」の文化を大事にする必要が紹介された。

最後に梶山代表から、主に肉食をしていた一部の旧石器時代人は、我々現生人の祖先ではなく、別の化石人である。20万年前のホモサピエンス誕生以来、植物のどんぶりんと魚介類を食べていたことが証明された。人とチンパンジーの遺伝子の違いも、デンプンから多くのエネルギーを得て大きな脳の活動と強い身体運動を支えるのが特徴で、人類の歴史からも糖質制限食生活への警鐘がなされた。

恒例の、管理栄養士とホテルシェフによる健康ランチは、フレイルを防ぐメニューを取り上げ、控えたカロリー(640kcal)に対し食べ応えがあるとたいへん好評であった。

[勉強会報告] KCFM家庭医療学セミナー ふくちやま (9月17日)

寺本 敬一 (京都家庭医療学センター (KCFM) ふくちやま協立診療所)

2015年度は家庭医療の紹介、糖尿病のUPDATES、認知症BPSD(特に排泄ケア)のテーマで開催し、おかげさまで好評をいただきました。今年度は、在宅看取りをテーマに、ふくちやま協立診療所デイケアルームにて開催しました。学習目標は、在宅看取り 経口摂取できなくなってからのケアと家庭医療学 特に患者中心の医療 難しい患者さんの対応の習得でした。



田中章太郎先生(たなかホームケアクリニック@三田市)の講演では、2事例を通して具体的な実践経験をお話していただき、改めて在宅看取り診療、ケアの魅力、尊さを教えていただくことができ、多くを学び感動的でさえありました。先生の目指す在宅診療の理念と理想を追求され、実践されている迫力、凄みを感じることができました。森井先生(保健師)も、的確なフォローで名コンビでした。

合計31名の多職種(ケアマネ、訪問看護師、薬剤師、診療所、病院連携室担当看護師、病院、診療所の作業療法士、医師)の参加で、在宅終末期で本人は強く在宅療養を希望したが、最終的に病院搬送となった事例についてのグループワークを行い、活発な討論がなされ、学びの相乗効果もみられました。地域の多職種の交流の場にもなり、当地域の在宅医療の質向上につながると確信しています。

アンケートからも当初の目的、学習目標以上に達成できていることが確認されました。田中章太郎先生、森井先生始めご参加頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

[支部報告] 第2回大阪府下専門研修プログラム交流会 (10月1日)

大島 民旗 (西淀病院/大阪市西淀川区)

大阪府下の専門研修プログラムを持っている指導医、専攻医の交流とスキルアップを目的として、大阪市立大学医学部で行いました。参加者数は29名(専攻医9名、その他医師19名、薬剤師1名)、大阪にとどまらず兵庫、滋賀からも参加がありました。最初にアイスブレイクがてらに各プログラムの状況と課題の共有、大規模施設でのコモンな症例の問題や小規模施設



での指導医の多忙さ、全体として後継者確保の課題などについて意見交換しました。その後浅井東診療所松井善典先生から「メタ認知と言語化の支援～ポートフォリオ(以下PF、と略)作成を実りあるものとするために」と題したミニレクチャー。「家庭医にとってPFとは?」の投げかけで双方向性に進行され、表題の2点の重要性の強調と、PFのエビデンスの紹介、専攻医に意義を理解してもらうことや書くための対話の重要性などを、「シン・ゴジラ」ネタも交えながら理路整然とした学びの多い内容でした。



最後に専攻医の作成途中のPFチェック(大阪家庭医療センター小滝先生、市立池田病院三砂先生)を小グループでの検討を経て全体討論、の進め方で行いましたが、完成度の高いPFでディスカッションも建設的な議論になりました。終了後の懇親会も11名で行いましたが、昨年のこの企画で専攻医のモチベーションが高まったことが紹介され、元気の出る1日になりました。

[勉強会報告] 第2回兵庫家庭医カンファレンス (10月16日)

一瀬 直日 (赤穂市民病院/兵庫県赤穂市)

爽やかな秋晴れの明石(医療センター)にて、兵庫県下の専攻医と指導医を対象とし、参加者26名(うち専攻医9名)と、地元医師会の先生方にも多く参加いただきました。第1部では、平成27年度の専門医試験受験者の中から優秀ポートフォリオ賞として選ばれた神廣憲記先生(京都:金井病院、関西家庭医療学センター)に提出ポートフォリオの実物を使って、内容や作成過程を解説していただきました。さらに、兵庫県下の指導医(森敬良[CFMDレジデンス 尼崎医療生協 本田診療所]、石丸直人[明石医療センター 総合内科]、一瀬直日)から、その優れた点をスライドで解説しました。症例を通しての考察の仕方、文献的考察の方法、具体的な視点の持ち方など、大変内容の濃いレクチャーとなりました。第2部では、平成28年度の専門医試験に合格した福岡雄太先生(CFMDレジデンス)より、専門医試験に合格するためのノウハウや注意点について具体的に体験談を解説いただきました。専攻医たちも真剣な表情で聞いていました。第3部はショーケース・ポートフォリオ発表を5名の専攻医が行い、全参加者がグループワークに基づいた採点とコメントを書き発表者に渡しました。圧倒的な人数で参加いただいた指導医達からは、貴重なコメントやアドバイス、熱いエールが送られ、皆とても満足して終わることができました。昨年よりも更に発表内容・ディスカッションのレベルとも高まったことを実感しました。



[幹事会企画] プライマリ・ケア医療史の伝承について (2) その1

梶山 泰男 (大阪市中央区東医師会)

歴史の記録とその検討は、今後私たち医師や患者さんがどこに行くかを知る上で大切な作業です。自分なりに記録すべき側面を例示しながら、記録の教えてくれる多面的価値を述べてみます。

大戦後、中国からの引き揚を経験した漫画家たちが戦後 50 年に戦争の記憶を画集にしました。70 年を前に再出版しようとしたらメンバー 10 名のうち 3 人が亡くなっていました。体験の記録には時間的制約があります。

さて私達の学会では、どんなテーマが急がれるでしょうか。

病気を診るのではなく、患者さんを、そのおられる場において診る臨床医の態度は、長らく診療所医師(開業医)の中に受けつがれて来ました。我々の学会ができるずっと以前からのことでした(前号で水野先生が書かれたように)。1950 年代からの医学研究や医療の技術革新の中、こうした態度がどう受けつがれてきて、自分たちはそれにどこで出会ったかも記録されるべきでしょう(私の場合はまた改めて)。

またこの技術革新の中で何が変わったかを知ることでも大切です。国内の幾つかの大学病院で人工心肺が動き出し、先天性疾患などに開心手術を始められた頃、リウマチ熱後の弁膜症の患者さんも集中して、手術室は麻痺状態になりました。開心手術で処置可能な例が多く、1970 年頃に関連病院に多くの心臓外科ユニットを立ち上げ、対応されました。しかし間もなく新たな症例の発症は減ってしまいました。これは抗生剤の開発と昭和 28 年(1953 年)の国民皆保険実施によって、小児の発熱疾患に容易に抗生剤が使えるようになって、急性腎炎が減少し、リウマチ熱も減少したためと思われます。その後動脈硬化性の弁膜症が増え、冠動脈手術とともに新たな分野の手術例が増えるまで相当の空白期間がありました。一般病院では多くの心臓外科医の転職があったようです。

疾病別発生頻度は、厚生労働省の統計では昭和 53 年(1978 年)以降があります。それ以前を含め発症頻度、手術例数などは個別データの収集や聞き書きが急がれるでしょう。なお小児の感染症の減少には医療の変化の他に栄養、特にタンパク栄養の改善も関与したと考えられます。栄養調査のデータはより遡れますが、食習慣の変化を含めて更に記載が欲しいものです。(続く)

[支部からのご連絡]

ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております!

- (1) 地域支部・グループ研究活動に対する補助について：近畿ブロック支部では、府県単位の地域支部活動やさまざまなグループ活動を積極的に支援するために、補助を行っています。要項等はニュースレター 12 号 (http://www.primary-care.or.jp/shibu/pdf_nl/kinki_12.pdf) の 4 ページをご参照願います。
- (2) 「専門医・認定医/認定薬剤師 単位申請」及び「ブロック支部補助」申請の手順について：単位申請は、ブロック支部幹事会での承認の後、学会本部の認定委員会での審査という **2 段階**の手続きとなります(ブロック支部からの補助は、ブロック支部幹事会の承認のみで決まります)。できるだけ、申請される方の負担を減らせるよう、窓口を一元化し、郵送回数を最小とした手順を整理していますので 15 号 (http://www.primary-care.or.jp/shibu/pdf_nl/kinki_15.pdf) の 4 ページをご参照願います。
- (3) 府県支部の所属について：学会会員の都府県(支部)の所属は、原則「勤務先」の所在地となっており、ブロック支部事務局に申し出ることにより、移動(又は重複)が可能です。学会に登録した連絡先(郵送物が届く住所)以外の府県支部への所属をご希望の方は、近畿ブロック支部事務局までご連絡をお願いいたします。各府県支部からの連絡が確実に届くようにするため、差し支えがなければ、連絡先を「勤務先」にする(変更には学会への届出が必要)ことをお勧めいたします。今後の府県支部活動の発展のため、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。
- (4) 大阪府支部からのお願い：2017 年 3 月 12 日(日)午後第 3 回総会を計画中です。今回も「大阪府会員一般演題プレイバック発表」を行う予定ですので、浅草学術大会及び和歌山近畿地方会における、特に印象に残った大阪府会員の一般演題を御推薦願います。締切は 12 月 31 日です。[JPCA-ML:001683] もご参照下さい。